

# 第14回 ING セミナー開催

本テーマ

# SDGs

SDGs をビジネスチャンスに！～事例から学ぶ、会社の業績を伸ばす SDGs～

## セミナー概要

SDGs は、経済・環境・社会の3つの側面からの取り組みが必要です。国や個人任せではなく、企業も積極的に課題解決に取り組むことが求められています。今回のセミナーでは、国の取り組みを環境省幹部の方から講演いただき、すでに成果(=利益)を上げている企業事例も併せてご紹介いたします。

## ビジネスの大変革期に突入



### 政治的要因

2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ

SXの推進によるESG投資の積極化

ダイバーシティ、子供の貧困対策の推進



### 経済的要因

未知のウィルス感染症の対策強化の必要性

気候変動・人権に関する将来を見据えた対策

日本の人口減少・働き方の変化を見据えた対策



### 社会的要因

SDGs認知度90%以上から企業への視線強まる

小学校・中学校・高校と教科書改訂にSDGs

循環型社会による地域創生の急務



### 技術的要因

DXの急進に伴う情報処理方法の変化に対応

在宅ワークの普及による効率化の必要性

WEB会議システムの普及で海外企業との効率化

大手企業の**4割**が  
**持続可能な調達活動**  
 を開始



下請け先・材料調達先に対し  
 人権・環境への取り組みを求め始めている  
**対応は他社との競争優位性に!!**

# 第14回 ING セミナー概要

主催

公益社団法人国際情報普及協会 (略称:ING)  
<http://www.ing.or.jp/>



■日時：2022年9月28日(水) 14:00～16:00

■開催：オンライン開催

※本セミナーは、コロナ禍のため、無観客オンラインライブ配信となります。

## ご挨拶 /SDGs について



**第1部**  
 前環境事務次官  
**中井 徳太郎 氏**

東京大学法学部卒業。大蔵省入省後、主計局主査などを経て、富山県庁へ出向。日本海学の確立・普及に携わる。その後、財務省理財局計画官、財務省主計局主計官などを経て、東日本大震災後の2011年7月の異動で環境省に。総合環境政策局総務課長、総合環境政策統括官などを経て、2020年7月より環境事務次官を務め、2022年7月に退職。

### 2050年カーボンニュートラル実現に向けての大変革 ～脱炭素と地域循環共生圏(ローカルSDGs)～

今、人類は気候危機と新型コロナウイルス危機に直面している。「脱炭素社会への移行」、「循環経済への移行」、「分散型・自然共生社会への移行」を合わせた「3つの移行」を加速化させ、持続可能で強靱な経済社会へのリ・デザインを強力に進めていくことが求められている。その具体化として、環境省では、地域が抱える様々な課題を、環境を切り口に分野横断的に、現実的に、持続可能で活力ある経済社会を作り、統合的に解決する「地域循環共生圏～ローカルSDGs～」づくりをすすめている。



**第2部**  
 株式会社アmano 社長室長  
**墨谷 剛士 氏**

近畿大学理工学部卒業後、株式会社インテリジェンス(現パーソルキャリア)にて広告部門の法人営業を担当。独立後2016年にSalute.Lab株式会社を設立。かねてより関心のあったヘルスケア業界で、メーカーとして製品の企画・開発に携わる。プロダクトの立ち上げ、ブランディングしてきた経験を活かし、現在は社外取締役として株式会社アmanoのプロダクト戦略に参画。

### 売上10倍に繋がった地域循環(SDGs)の取り組み ～従業員10名でもプロジェクト化で実現～

ホテル・物流・産廃・子ども食堂が絡んだ一連の循環型SDGsプロジェクトを開始。使用された手袋を回収する袋もセットで納品して廃棄物を佐川急便に協力を仰いで回収。回収された手袋は関連の産廃会社にて分解されて肥料にアップサイクルして販売。売上の一部を全国の子ども食堂に寄付する。ホテルはSDGsへの対応が積極的で、このプロジェクト型の製品を購入いただく事で、SDGsへの取り組みに繋がることをご理解いただき、コスト増への課題をクリア。結果的に注文急増に繋がる。



**第3部**  
 株式会社エコシステム 代表取締役  
**高田 実 氏**

2018年 SDGs ビジネスアワード 2018 グローバルリーダー賞受賞  
 2020年 海外展開へ布石 (JETRO、環境省、JICA) 経産省「適応グッドプラクティス事例集」にピックアップ  
 大量生産・大量消費型社会が生んだ産業廃棄物の瓦。家庭解体現場などから発生する瓦廃材も例外ではない。形状の特異性などから最終処分場でも受け入れを敬遠されたり、処分費も年々高くなってきている中、瓦廃材を粉砕し、透水性特殊舗装製品や複合コンクリートとして再利用した製品を開発。

### 持続可能な都市開発を目指して ～建設廃材を機能性舗装材へ！～

建設廃棄物は世界中で日々大量に発生しています。当社は瓦のリサイクルを20年以上続けており、今その技術を海外へ向けて発信しています。建設廃棄物は国や都市の発展に伴い増加するため、途上国ではその対策が問題となってきました。当社は建設廃棄物のうち、瓦や似た素材であるレンガのリサイクルについて、緩和と適応に合致する形でビジネス展開。中小企業でも取り組める事例をお話します。

## 閉会のご挨拶

## お申込みについて

### 簡単 3 ステップ

**1** 以下、QRコードまたはURLよりフォームへアクセス



**2** 当日の参加情報を自動返信でお届け



**3** 当日お時間にURLをクリック



【プライバシーポリシー】

登録時に提供して頂く情報は、zoom アカウントオーナー及びホストと共有されます。zoom アカウントオーナーとホストは、その情報をプライバシーポリシーに従って使用・共有いたします。公益社団法人国際情報普及協会のプライバシーポリシーは、以下からご確認ください。  
<http://www.ing.or.jp/privacy/>  
 また、お申し込みフォームにも、プライバシーポリシーへのリンクを掲載しております。お申し込みの際には、プライバシーポリシーをご確認ください。